

「港湾空港部」のミッション



国土交通省
近畿地方整備局



港のカッターレース



港の写生大会

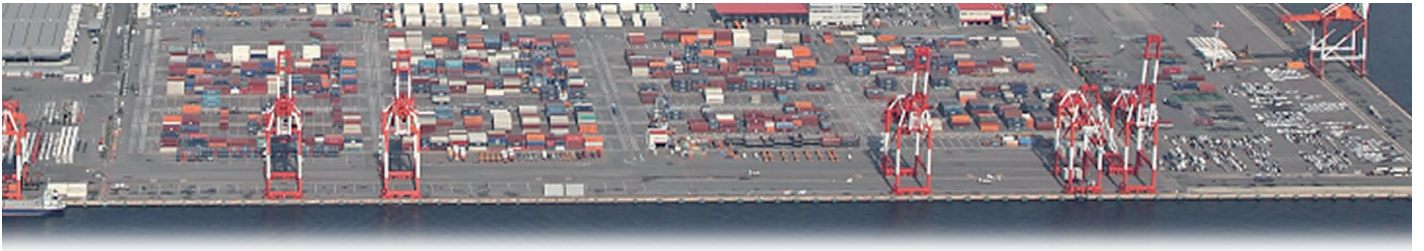
海に囲まれた島国「日本」 「みなと」が支える 豊かな暮らし！



クルーズ船の入港

日本地図を書き換えることができる仕事！





港湾空港部長の思い

港湾は、モノや人が行き交う場であり、工場の立地など産業活動の拠点でもあります。島国、日本にとって極めて**重要なインフラ**だと言えます。

私たちの日常生活を支える食料や日用品、さらには産業を支える部品や製品の輸出入のほとんどが海上コンテナという荷姿で港湾を通じて流通しています。その海上輸送を担う**コンテナ船**は、大型化の流れが著しく進展し、欧米と日本を結ぶ航路では、今や超高層ビルの高さと同じ位の巨大な船舶が主流になりつつあります。

また、近年海外から我が国に**クルーズ客船**で訪れる観光客が爆発的に増加してきています。旅行費用を抑えるためにできるだけ沢山の旅客を乗船させられるよう、クルーズ客船も大型化しており、今や海上を動く巨大ホテルの様相です。

さらに、近畿管内の主要産業である鉄鋼業やエネルギー産業の**原料・資源の輸送船**も、パナマ運河やスエズ運河の拡張などの動きに合わせて巨大化しています。

こういった大型化する船舶が利用しやすい港湾とは、水深が深く、広々と利用できて地震にも強いヤードを有する高規格なものでなければなりません。高度経済成長期に造られた古くなった**港湾を時代のニーズに合うよう造り変えていくのが私たち近畿地方整備局港湾空港部の仕事**です。

他方、**南海トラフ巨大地震**の発生が切迫している状況にあり、近畿圏に暮らす人々の生命・財産や産業活動を**しっかり守るための対応**も急務です。また、海上交通や、漁業活動の場であり、廃棄物処理など都市生活のサポート機能も有している**豊かな大阪湾の環境**を持続的に守っていくこともミッションです。

私たち**近畿地方整備局港湾空港部**は、全国で2つしか指定されていない国際コンテナ戦略港湾の1つである**阪神港**を管内に有しており、また、全国に2つしかない**基幹的広域防災拠点**の1つの運用を任されています。**国の経済と国民の暮らしを守るため**、港湾や海岸の整備や利用を通じて我々が貢献していかなければならないことは山積している状況です。これから社会を担う若い方々が活躍できる**フィールドは無限**に広がっています。我々とともに、**斬新な発想と行動力**で**前向き**に業務に取り組んでくれる**若い力に大いに期待**しております。



港湾空港部が管理する基幹的広域防災拠点で、自衛隊、消防、自治体等と防災訓練を毎年開催しています。

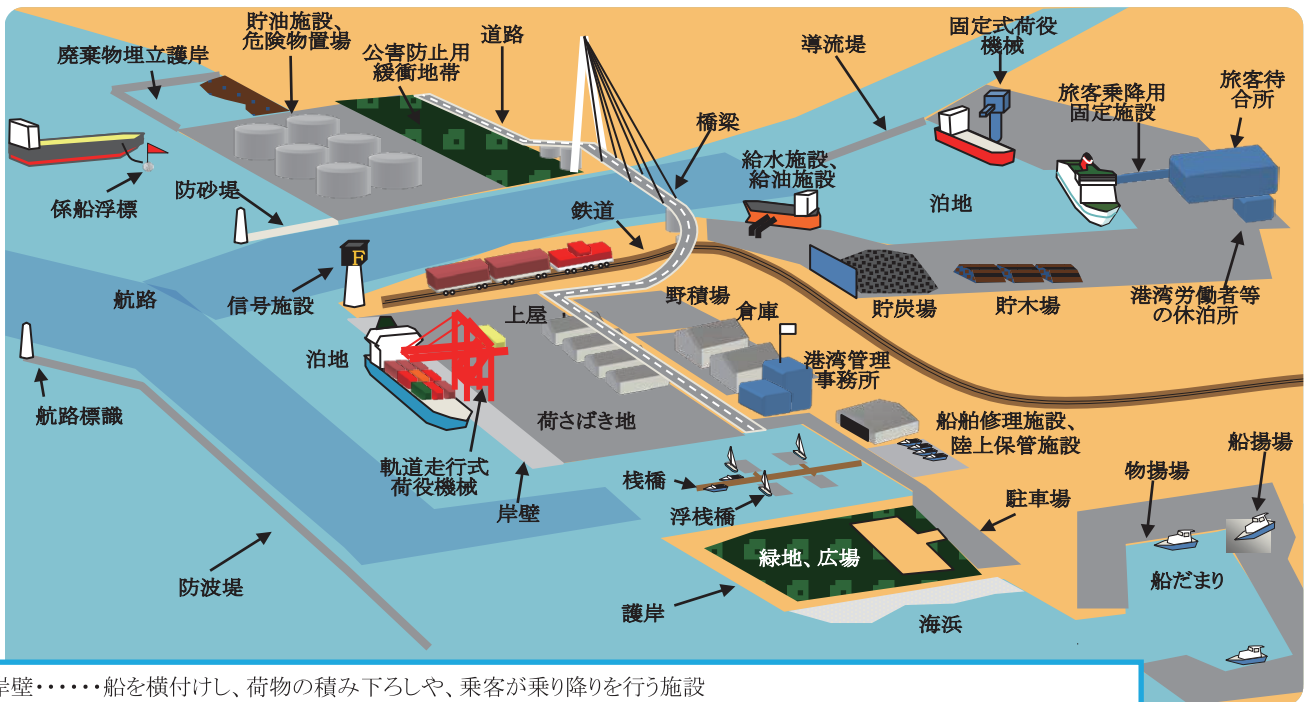
港湾とは！



港湾計画課 計画第二係
佐藤 文郎(平成10年入省)

港湾はいろいろな施設(岸壁、航路、泊地、防波堤、道路、橋など)が連携し、その機能を発揮します。

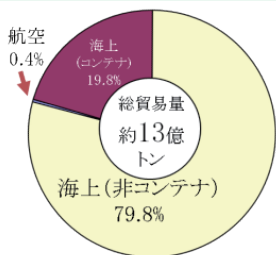
港湾空港部では、各施設の整備及び適切な維持管理、老朽化対策並びにソフト施策を全国的、国際的な観点で進めることで、物流機能の強化を図り日本の国際競争力強化に努めています。



- 岸壁.....船を横付けし、荷物の積み下ろしや、乗客が乗り降りを行う施設
- 防波堤.....船から安全に荷物を積み下ろしするために、港内への波の進入を防ぎ、港の中を静穏にする施設
- 航路.....船の通り道。水深の浅い港では、大きな船が入港できるように海底を掘り(浚渫)下げます。
- 荷役機械..荷物を積み下ろしする機械。コンテナ埠頭にはガントリークレーンが設置され作業時間を短縮化しています。

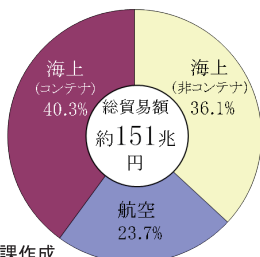
港湾の役割と現状

(我が国の貿易量・貿易額の構成比)



出典
 ・航空貨物量：貿易統計(2014年)
 ・海上貨物量：海事レポート
 ・輸送機関別貿易額：財務省「貿易統計」より国土交通省港湾局計画課作成

日本の貿易量の
99.6%
は港を通じた海上輸送



港湾事業企画課 企画調整係
大總 学(平成9年入省)

日本は周りが海に囲まれた島国であるため、資源や穀物、身の回りの製品等の多くを輸入に頼っています。船による輸送は、一度に多くのものを運ぶことができるため、貿易量の99.6%は港を通じた海上輸送です。私たちは港の施設整備を通じて人々の暮らしを支えています。

港湾空港部の主な取り組み

【経済・地域の活性化】

○地域経済を支える港湾機能の強化と、クルーズ振興を通じた地域の活性化のために



クルーズ振興・港湾物流企画室 臨海部産業係
西光 裕香(平成27年入省)

物流の効率化に直結する港湾機能を強化することにより、産業(企業)の立地・投資環境を向上させ、住民生活、企業活動に必要な物資を安く安定的に確保することで、企業の競争力を高め、雇用及び所得を創出、確保します。

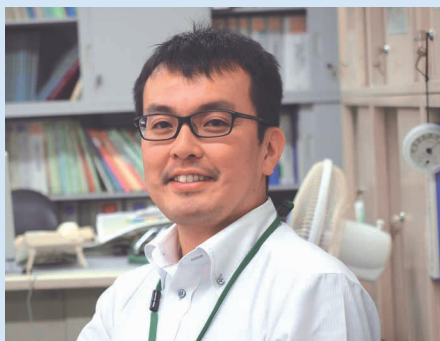
また、近年増加しているクルーズ船の寄港による地域振興に向けた取り組みも支援しています。

【一言メッセージ】

国際コンテナ戦略港湾「阪神港」の機能強化を図り、国際物流の効率化を通じた関西経済の活性化を目指す国際物流戦略チームを担当しています。港湾のもつダイナミズムを日々強く感じる業務にやりがいを感じています。

【国民の安全・安心の確保】

○南海トラフ大地震による大規模災害への対策や港湾物流セキュリティを確保します



港湾計画課 海岸・環境係
藤野 明(平成14年入省)

地震・津波・高潮など大規模災害発災時に、港湾物流や市民生活が機能不全に陥らないよう、港湾や海岸の津波・高潮対策整備を進めています。また、港湾物流のセキュリティを確保するため、港湾の保安対策を強化し、国際社会への貢献と日本の国益・安心を確保します。

【一言メッセージ】

地震・津波や台風などの自然災害に対する防災対策の推進が喫緊の課題となるなか、管内各地域の特色に応じた対策を推進する業務を担当しています。国民の生命と財産を守ることに直結する仕事に責任とやりがいを感じながら業務に取り組んでいます。

【環境・潤いの創出】

○美しく親しみやすい豊かな「魚庭(なにわ)の海」を目指して



神戸港湾空港技術調査事務所 調査課
渡邊 耕記(平成29年入省)

古くから産業・貿易・漁業の場として利用されてきた大阪湾。高度経済成長期の埋め立てにより、物流・産業機能が強化され日本経済を支えてきましたが、同時に海の生き物生息環境も悪化してきました。かつての豊かな大阪湾を目指して、広域的な連携による大阪湾海域環境の改善、親水性のある海岸環境の整備に取り組んでいます。

【一言メッセージ】

事務所が海に面した場所にあり、潮の香りを感じて仕事をしています。この豊かな大阪湾にもっと親しみをもってもらえるべく、住民や市民団体、学識者、企業等と連携・協働し「大阪湾の再生」に取り組んでいます。

【経済・地域の活性化】

経済社会の活力の基盤、港湾機能(物流)を強化

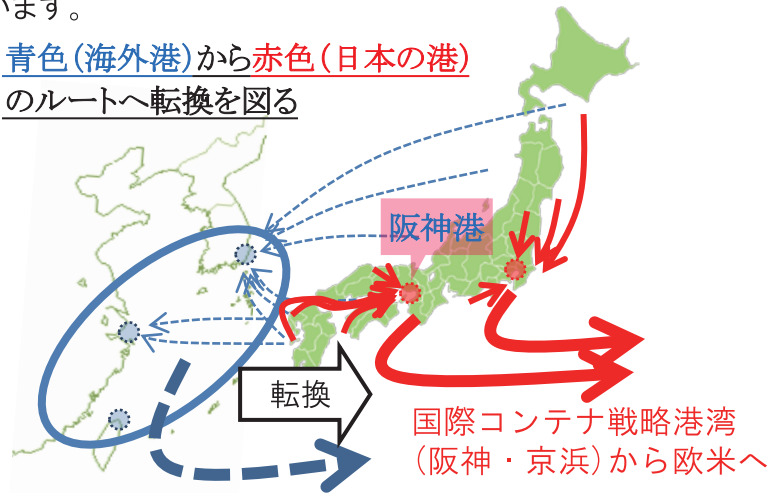


港湾計画課 企画係
石堂 聡大(平成28年入省)

港湾空港部では、海外の港経由で運ばれている日本の貨物を日本の港に戻し、日本と欧米を直接結ぶ国際航路を維持・拡大して、企業の国際競争力強化を図るため、「**国際コンテナ戦略港湾**」である阪神港(大阪港、神戸港)を整備しています。

具体的な政策として、巨大コンテナ船が寄港できる大水深コンテナターミナルや大型クレーンの整備、高機能倉庫の建設支援等を行っています。

青色(海外港)から赤色(日本の港)のルートへ転換を図る



神戸港六甲アイランド地区RC7 コンテナ積み降ろし状況

クルーズ船の寄港を活かした地域の創生



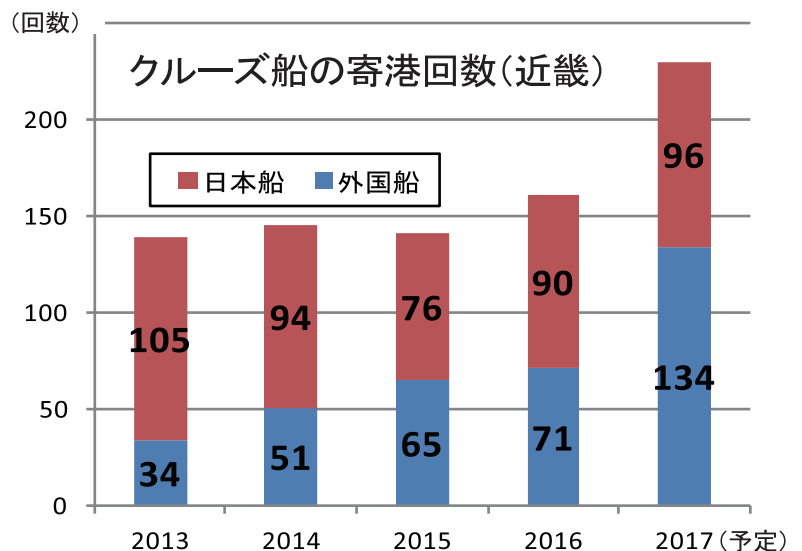
港湾事業企画課 企画調整係
久野 貴之(平成27年入省)

近畿地方において急増するクルーズ船の寄港ニーズに対応するため、**外国クルーズ船に対応した岸壁の整備や、瀬戸内海クルーズ周遊ルートの開拓**をすすめ、クルーズ船の寄港を活かした地域の創生を図ります。



大阪港天保山

2016年3月22日入港 クイーン・エリザベス



【国民の安全・安心の確保】

国民の安全・安心な生活空間を守る(基幹的広域防災拠点の整備・管理・運営)



近畿圏臨海防災センター
文屋 大介(平成10年入省)

大規模地震などによる災害発生直後に、国、自治体、自衛隊などが相互連携し、広域的な災害対策活動を行うための「基幹的広域防災拠点」の整備・管理・運営をしています。発災時には、緊急支援物資、支援人員の受入、被災地へ輸送を行う本部としての機能を発揮します。



防災訓練でバックホウを操作する港湾空港部の職員



基幹的広域防災拠点
(近畿圏臨海防災センター)

和歌山下津港海岸(海南地区) 津波対策事業



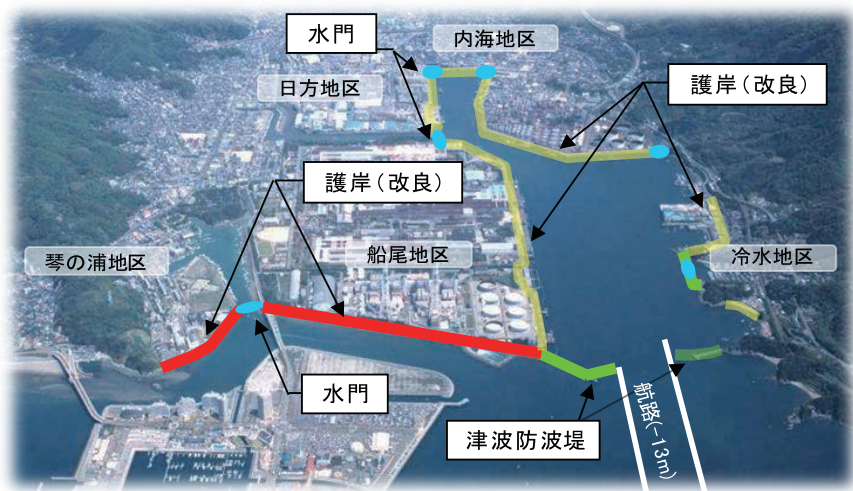
和歌山港湾事務所 海岸課
松島 修平(平成21年入省)

和歌山下津港海南地区の背後地域には、行政・防災中枢機能や世界的な製造企業群が集積しているため、南海トラフ地震による津波来襲時には深刻な被害の発生が危惧されています。

このため護岸、津波防波堤、水門を組合わせた施設整備による津波浸水被害の軽減を図る津波対策事業を進めています。



琴ノ浦水門



■ 事業内容 : 護岸(改良) 6.3km, 津波防波堤 0.6km, 水門 6基

【環境・潤いの創出】

人と地球に優しく潤いある空間の創出



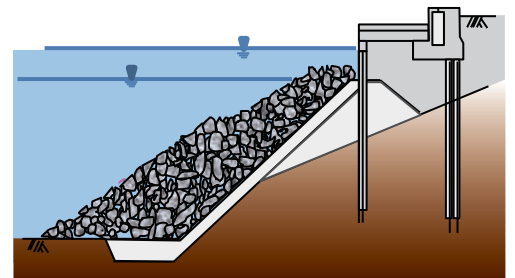
神戸港湾空港技術調査事務所
市川 雅(平成28年入省)

大阪湾では、「海域生物の生息に重要な場の再生」を目標の一つに、大阪湾再生に取り組んでいます。

国土を守る護岸や防波堤などは、壁を垂直に整備することが多く、砂浜や岩礁と比べ、干満帯に生息する生物の定着が困難なことから、**護岸などの老朽化対策や耐震性向上と合わせ、環境改善機能を付加する事業**に取り組んでいます。具体的には堺泉北港の堺2区で**生物共生型護岸を整備**し、水質、底質、海生生物等のモニタリング調査を進め、**生物生息環境の改善と技術開発、知見の蓄積**を進めています。



既設護岸



緩傾斜護岸、魚礁ブロックタイプ護岸などを整備して、生物生息環境を改善します

船舶の航行安全の確保と、海域環境を守るため、東京湾、伊勢湾、瀬戸内海などの閉鎖性海域で、海面に漂流する**流木等のゴミ**や**船舶等から流出した油**を回収する**海洋環境整備船**を配備しています。

近畿地方では神戸港湾事務所所属の2隻と和歌山港湾事務所所属の1隻の計3隻が活動しています。



神戸
神戸沖を大阪湾北部海域で回収された浮遊ゴミの中から、今夏を化すアカウミガメ計22匹が保護され、19日、神戸市須磨区若宮町1の市立

大阪湾で「保護」、**須磨水族園で数匹ずつ公開**
来月14日まで

須磨海水族園で初めて公開された。同海域で子ガメがまともに見つかることは珍しいといふ。

子ガメは4〜18日の間、大阪湾で行われた流木や一般ゴミの回収で見つかり、海ガメの飼育研究で知られる同園に持ち込まれた。

2年間も浮遊ゴミの回収で子ガメが見つかった例があるが、大阪湾周辺では8〜10月ごろにふ化し、いち早く太平洋に出るため、湾

国交省神戸港湾事務所が回収した浮遊ゴミの中から保護されたアカウミガメの子「須磨海浜水族園」



「震災がれき」撤去訓練



「流木の回収状況」

港湾施設の設計、施設整備

日本地図を書き換えるビックプロジェクト



神戸港湾事務所 保全課
上中 一弘(平成22年入省)

港湾工事は、港湾施設の沖合展開により、大水深や超軟弱地対応など、新しい環境下の工事が増えています。これらに対応できるよう、新しい構造形式、新工法などの開発に積極的に取り組んでいます。また工事の実施にあたっては、港湾利用者やユーザーなど多くの関係者と調整し進める必要があります。**国の事業は、日本地図を書き換えるビックプロジェクト**が多くあり、技術者として醍醐味を感じるこのことのできる仕事です。



①ケーソン製作



②海上地盤改良



③ケーソン据付



④コンテナターミナル完成

耐震診断システムの開発

地震に対する危険性が高い施設を「簡単に」、「早く」抽出！



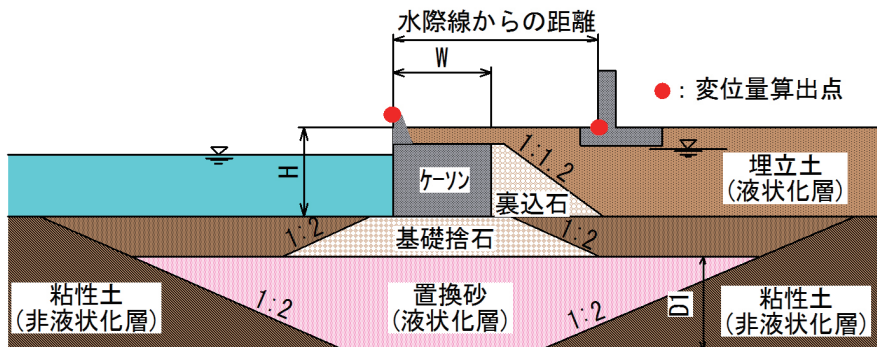
神戸港湾空港技術調査事務所
技術開発課
上田 隆(平成13年入省)

平成15年の中央防災会議で、東海・東南海・南海の三連動地震が発表され、海岸保全施設、港湾施設の耐震性能を確認する必要が生じ、多くの自治体から、施設の耐震性能を簡易に確認できるシステム開発の要請が寄せられました。これを受け、近畿地方整備局 港湾空港部では概略データでも地震時の変位量が判定できる**「チャート式耐震診断システム」**を開発しました。

このシステムの開発により、地震に対する危険性が高い施設を「簡単に」「早く」抽出することが可能になりました。

現在は、平成23年3月の東日本大震災の知見を踏まえた新たな地震モデルのシステム開発を行い、精度向上に努めています。

重力式岸壁の診断イメージ



港湾施設整備の様子

RC7



荷さばき地耐震改良(SCP工法)
(神戸港)

神戸港は、大規模災害時に物流機能を維持させることを求められています。そのため、液状化対策工事を行い、災害がおこっても耐えられる施設整備を進めています。



神戸港湾事務所 第二工務課
芦田 正太(平成11年入省)



和歌山港湾事務所 保全課
坂 美瑞保(平成21年入省)

和歌山県は台風時の高潮や地震時の津波による被害がおこる可能性があります。防波堤を整備することで、波の力や波浪の侵入を軽減し、人々の命や財産を守ることができます。



防波堤整備(ハイブリットケーソン製作)
(和歌山下津港)



コスタ・ネオロマンチカ

国際旅客船埠頭整備
(舞鶴港)

舞鶴港は近畿地方の日本海側における海の玄関口として重要な役割を担っている港です。特に京都観光の起点としても需要がある、外国クルーズ船に対応した施設整備を行っています。

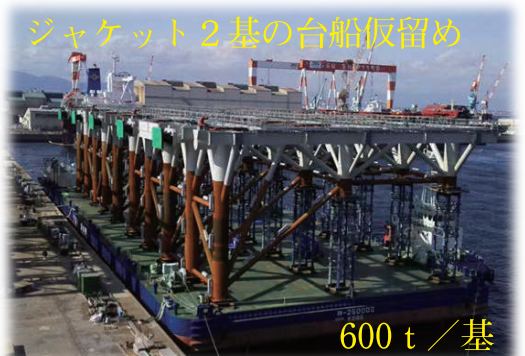


舞鶴港湾事務所 沿岸防災対策室
西村 健志(平成28年入省)



大阪港湾・空港整備事務所 工務課
藤本 成児(平成16年入省)

大阪港は経済・物流の中心的な機能を持っています。岸壁を整備することで、港を通じて多くの物資を運ぶことが可能になります。



ジャケット2基の台船仮留め
600t/基
耐震強化岸壁整備(ジャケット台船運搬)
(大阪港)

戦略的な維持管理(老朽化対策)

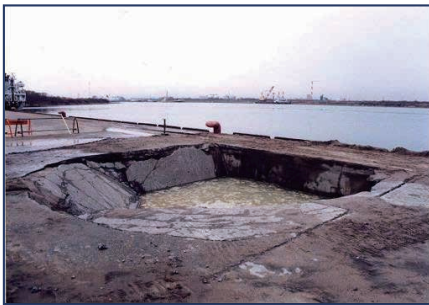
港湾の施設は、塩害などの厳しい環境下にあると共に、海中部等の目視では容易に劣化・損傷状況を把握できない部分も多いのが特徴です。このため、海中部の鋼矢板や鋼管杭、栈橋床版の裏側などの劣化・損傷が見逃され、大事故に繋がる可能性があります。

また、高度経済成長期に集中整備した施設の老朽化が進行し、港湾の基幹的役割を果たす係留施設では、建設後50年以上の施設が平成26年3月に10%、平成46年3月には約60%に増加します。私たちは、適切かつ**戦略的な維持管理(老朽化対策)**を行うことによって、**施設を安全に利用できる対策を進めています。**

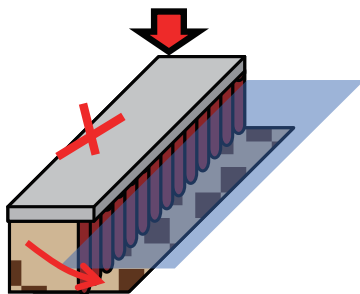


港湾事業企画課 技術審査係
藤倉 永大(平成11年入省)

岸壁の劣化・損傷の事例



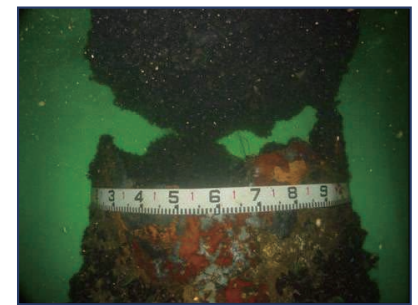
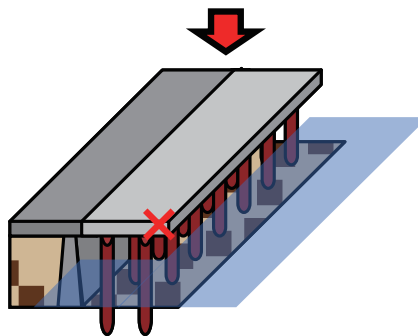
裏込め土の吸出しによるエプロンの陥没



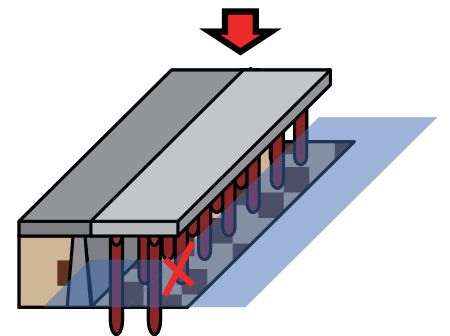
鋼矢板の腐食により穴があき、裏込め土吸出し



鉄筋の腐食によるコンクリートの剥離



鋼管杭の腐食の進行による杭の破断



岸壁の維持管理 対策事例

軽微な劣化
(維持工事による対応)

重度な劣化
(改良工事による対応)



▲ エプロンのひび割れに樹脂を充填



▲ 表面被覆工法による補修



▲ 床版の打ち替え

職員の1日

久野 貴之(港湾事業企画課 平成27年入省)

「港湾空港部全体の予算管理や事業実施上の課題対応などを担当しています。」

8:20 出勤

甲子園の近くに住んでいます。出勤後は始業に向けて、スケジュールの確認等を行います。



8:30 デスクワーク

予算管理を中心に、調査に関わる資料作成や、事務所からの相談にのっています。



12:00 昼食

職場の周りにはおしゃれな店や、ワンコインでお腹いっぱいになる食堂が多数あるので、午後に向けて栄養補給します。



13:00 打合せ

昼から進める仕事の相談を上司に行きます。また、会議や業務上で分からなかった部分を教えてもらいます。



18:00 退勤

できるだけ早く帰れるようにスピード感をもって仕事をするようにしています。週末は退庁後、職場の仲間と呑みにいくことも多いです。



休日の過ごし方

初ボーナスで購入したロードバイクで、休日はサイクリングをしています。同期と淡路島1周にトライしたこともありました。



西光 裕香(クルーズ振興・港湾物流企画室 平成27年入省)

「阪神港の物流の効率化や産業の発展に関して話し合われる会議・協議会で議論される港湾物流のソフト施策の提案や資料作成等を行っています。」

8:20 出勤

始業時間より早めに到着し、その日の予定や、メールをチェックしています。



8:30 新聞チェック

毎日必ず行う作業です。早めの出勤は新聞チェックを始業後すぐに行うためでもあります。港湾の物流関連の記事を中心にチェックします。



10:00 デスクワーク

午前中は施策の提案に必要なデータの分析や、その結果を資料にまとめる作業を行います。



12:00 昼食

昼食は、お弁当を自分で作って食べたり、先輩や後輩とランチに出かけたり日によって自由に過ごしています。



13:00 打合せ

午後からは打合せです。会議や協議会に向けての論点について話し合ったり、阪神港の発展に向けた施策について打ち合わせました。



17:15 退勤

毎週水曜日と金曜日は定時退庁日です。終業後は、同僚や友達と映画や買い物に出かけることもあります。



職場の様子(神戸港湾事務所)

若手職員、ベテラン職員が一丸となって
大プロジェクトに取り組んでいます！

神戸港湾事務所
企画調整課長
加藤 英明
企画調整係長
中筋 みゆき



神戸港は1868年1月に開港し、150年を迎えました。神戸港は、居留地に住む外国人がもたらす西洋文化や先端技術をいち早く吸収したことから、異国情緒豊かで、グルメとハイカラ文化の発信地であり、また日本屈指の貿易港として、明治から今日まで日本の発展をリードして来ました。現在の神戸港は、世界と日本を結ぶ物流拠点として、またクルーズ船や人々が訪れる観光地として、ますます賑わいをみせています。そのような神戸港の海が見える一角に私たちの勤務先、神戸港湾事務所は所在しています。

神戸港湾事務所は昭和9年に開設された歴史ある神戸の事務所で、**港の施設整備や維持管理、防災・保安、環境の仕事を担当し、日本経済と国民の暮らしを守る取り組みを進めています。**多くの方々が「港(みなと)」で思い浮かべる姿、イメージは、「夜景がきれい」、「美味しい食べ物(洋食、海の幸)」、「船」、「水族館などのデートスポット」等が多いのではないかと思います。

企画調整課では、港の整備や維持管理、防災・保安、環境の仕事の効果を地域住民の方々へわかりやすくPRする仕事も担当しています！



日本は四方を海に囲まれた島国です。私たちの日常生活を支える食料や日用品、産業を支える部品や製品のほとんどが(日本の貿易量の99.6%)海の港(みなと)を通じて、輸出や輸入をしていますので、港は私たちの暮らしに無くてはならない重要な拠点です。

1967年くらいから海上コンテナ輸送が始まり、今では何でもコンテナに詰めて貿易をする時代になってきています。30年程前は、神戸港が世界で4番目のコンテナ取扱量で、日本を代表する貿易港でした。しかしアジア各国がものすごく経済発展し、コンテナ取扱量を伸ばした結果、今やコンテナ取扱量の世界ランキングは、ほとんどが上海やシンガポールなどのアジアの主要港に変わってしまいました。

いろいろな課題をクリアするために、事務所職員が連携・協力して、また、一緒に勉強しながら仕事に取り組んでいます！



このままでは、日本の物流が積替え国の情勢に大きく左右されることになり、そのうえ、アジア主要国の港を経由(積み替え)することで余分なコストや時間がかかります。日本の国際競争力を強化するためには、日本に直接寄港する国際基幹航路を維持・拡大する仕組みが重要となります。

そこで平成22年8月に「阪神港(神戸港・大阪港)」と「京浜港」を国際コンテナ戦略港湾に選定し、いろいろな施策を集中投下(大水深岸壁の整備や、港への貨物の集約、港湾運営の民営化等の総合的な施策を官民連携で取り組み)して状況の改善を図っています。

港の機能を向上させて、西日本地域の暮らしを守ります！



神戸港湾事務所が取り組む港の施設整備では、大型化するコンテナ船に対応するため、神戸港の六甲アイランド地区、ポートアイランド(第二期)地区で、国際水準(水深・広さ)の大水深コンテナターミナルの整備に取り組んでいます。

工事では、想定していなかった現場条件が判明したり、天候の影響を受けたりと、いろいろな課題が次々と発生します。国際コンテナ戦略港湾施策の効果を早く発現させるために、少しでも早く完成することが求められています。待たなしです！

工事は、事務所職員だけでなく多くの関係者と連携・協力しながら取り組むと共に、課題や問題が生じたら事務所内で問題を共有して解決していきます。事務所には部署を超えて事業を進めようという気風があり、若手職員もベテラン職員も使命感をもって、プロジェクトを進めています。

ワーク・ライフ・バランス

やりがいや充実感を感じながら働き、育児・介護の時間や、家庭、地域活動、自己啓発など自分の時間を持つ生活を実現するため、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の取組を積極的に進めています。

【事例紹介】

ある共働きの職員の1日（仕事と子育てを両立）



- ・仕事と育児の両立を支援するために、様々な制度が用意されています。
- ・これらの制度は男女問わず、利用が可能です。

職場のイベント



港湾計画課 海岸・環境係
三枝 和貴(平成28年入省)

職場の仲間たちで、リレーマラソンやビーチバレーなど、様々なイベントに参加しています。

神戸港メリケンパークでは、毎年カッターレースが開催されており、近畿地整港湾空港部もチームを編成して出場しています。今年は副局長をはじめ新規採用職員も含む計3チーム、24名がクルーとして出場しました。この日に向けて練習を重ね、クルー一丸となって決勝進出を目指して挑みましたが、残念ながら、1回戦敗退となりました。

しかしながら、職場から多数の人が応援に駆けつけてくれ、職場の一体感を感じることができた楽しい1日でした。

来年は皆さんも是非、一緒に出場しましょう。



研修

行政に求められるニーズは多岐にわたり、それらに適切に対応して行くためには、**職員のスキルアップが必要**となります。

近畿地方整備局港湾空港部では、入省後直ちに技術系職員として必要な専門知識を習得する建設技術研修や、現場の知識を学ぶ施工監督技術研修、設計研修、TEC-FORCE研修など、**係員から管理職まで、レベルに合わせた様々な専門的研修が充実し、スキルアップに努めています。**



施工監督技術研修で現場を学ぶ係員の様子

港湾空港部の勤務地、転勤

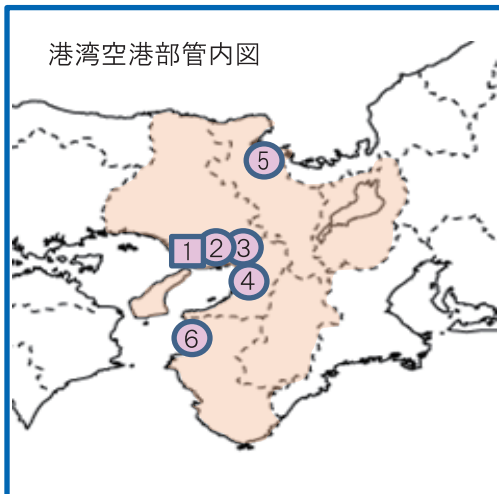
港湾空港部の勤務地は、近畿地方管内に6カ所あり、その内、**阪神地区に4カ所** 所在しています。

採用前は、転勤に伴う引っ越しを心配される方も多いですが、**阪神地区は交通網が発達**していますので、引っ越しを伴う転勤は比較的少なく、自宅等から通っている方も多くいます。

家族で住める世帯用宿舎や、寮が各地にあり、希望すれば入居することができます。また自分で部屋を借りる方には住居手当が支給されます。(阪神地区の宿舎は神戸市、西宮市に所在)

転勤は2～3年に1度あります。様々な経験を積み、港湾行政のプロフェッショナルとして、多くのプロジェクトで活躍していただきたいと考えています。

①神戸本局



港湾空港部管内図

(通常の勤務地)

- ①神戸本局(神戸市中央区)
- ②神戸港湾事務所(神戸市中央区)
- ③神戸港湾空港技術調査事務所(〃)
- ④大阪港湾・空港整備事務所(大阪市港区)
- ⑤舞鶴港湾事務所(舞鶴市)
- ⑥和歌山港湾事務所(和歌山市)

(その他勤務地)

- ・本省 港湾局など(東京都千代田区)
- ・国土技術政策総合研究所(横須賀)
- ・港湾空港技術研究所(横須賀)
- ・他の省庁等(神戸海保、近畿地方環境事務所等)
- ・海外(留学、大使館勤務)



②神戸港湾事務所

③神戸港湾空港技術調査事務所



大阪港夢洲 コンテナターミナル整備
現場確認(ジャケット据付状況)



大阪港



(港湾空港の問い合わせ先)

近畿地方整備局 港湾空港部

港湾事業企画課 石田・大總

TEL 078-391-4214

神戸市中央区海岸通29番地 神戸地方合同庁舎 5F

メール pa.kkr-hnk-port@mlit.go.jp

<http://www.pa.kkr.mlit.go.jp/>

<https://www.facebook.com/PHB.MLIT.Japan>



大阪港 天保山旅客船ターミナル

